

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社モリモト		
事業所名	グループホーム田尻の里	ユニット名	北
所在地	福岡市西区大字田尻1520		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	平成26年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年11月11日	評価確定日	平成25年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「好きに暮らして、明るく安心」をモットーに、安心で安全・安楽な生活環境の提供を心がけています。そして、障害を有されていても、尊厳ある生活者としての「いきがい」支援を願い、スタッフは今を大事に思って、笑顔を決やさないようにしています。介護保険事業者として、地域密着事業者としての期待に添えるよう、順法精神に立った、関係者に喜ばれる運営に努めています。

また、サービスの提供は、チームケアの重要性の理解に立ち、入居者と同じように、スタッフ相互の信頼関係如何は特に、その内容や質を左右するものと考えますので、失敗事例を大切に共有し、個々の反省も然りですが、それ以上にチームとして事例理解し、分析し、事故等の防止にこころがける服務姿勢を大事にしていきたいと考えています。権利擁護は、高齢者のみにではなく、チーム総員にも、その重さを認識すべきと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム田尻の里”に到着すると、毎月恒例の保育園児の訪問日で、焼き芋のための炭の準備が職員によって進められていた。園児がホームで過ごす事で、園児の成長にも良い影響を与え、優しく思いやりのある子どもに育っている。日々の生活では、計画作成担当者を中心に職員同士の信頼関係を深めており、研修計画も計画作成担当者中心に作成している。評価表で自己チェックを行うと共に、半年ごとに個人面談を行い、職員自らの目標設定を始めた事で、次第に職員のモチベーションも高まってきている。25年7月から看護師が入職した事もあり、健康面で気付いた事を報告し、医療機関への報告や受診業務を管理してもらえるようになった。重度化予防にも努め、ご利用者に応じた役割を担って頂き、歩行訓練なども介護計画に盛り込まれている。家族の意向を把握する取り組みも行われ、外出や看とりに関するアンケートも実施された。職員個々の行動力は着実に高まっており、今後も引き続き「笑顔の絶えないスタッフ」である事を大切に、日々、理念の実践に取り組まれていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普段のケアが事業所の理念を表していると思う。	尊厳ある生活者としての“生きがい”を大切に、地域の中でその人らしく、生きがいのある暮らしを支援している。ご利用者の生活歴を把握し、それぞれの役割を担って頂くと共に、家族参加の行事を多くしたり、家族への協力を求め、外出の機会を作ってもらう等の働きかけも行われた。	今後も引き続き、より理念を意識して日々の業務を行っていきたいと考えている。理念と日々の実践を、いかに結びつけていくのかも含め、ユニット会議の場などで振り返りをしていく予定にしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児の訪問、食材の搬入など地元の業者が入るなどして地域のつながりがある。	ホームには、演芸ボランティアの方や保育園児の訪問も毎月あり、ご利用者の楽しみとなっている。中学生の体験学習では校歌を合唱して下さり、ゲームも楽しまれた。保育園の運動会の見学に行かれたり、地域の子供たちの人形浄瑠璃の発表会にも参加する事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのここの掲示物を協力病院に貼り、開けたホームをアピールを少しだした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行うようになり、参加者も増えている。	25年度から、年に6回開催している。会議の中では「家族参加行事を増やして欲しい」という意見があり、案内状の作成や出欠表での確認等が行われ、医療連携に関する情報交換も行われた。他のホームの会議にも参加し、会議の進行などの勉強も続けており、今後も話しやすい会議にしていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課からの、季節ごとのお知らせ（食中毒対策など）の情報が流れてくる。介護保険の更新手続き。	計画作成担当者が、介護保険の申請や住所変更に伴う介護保険の手続きをしている。生活保護に関する相談にも、市の方は親身に応じて下さっている。福岡市西区西部6校区地域密着部会の設立構成員として管理者が参画し、25年度に立ち上がり、情報交換や勉強会、地域関係者との密着活動も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常時、行なっているわけでないが車椅子をテーブルに付けて出にくくしたりしていた事はある。	職員全員“身体拘束はしない”という思いがあり、ご利用者の“ありのまま”を受け止めるようにしている。声かけにも配慮し、ご本人の不安や混乱を減らすように努めている。感情不安定になられる時にはお話を聞き、家族と過ごす時間も作られている。身体拘束に当たる行為の再確認を行い、安全に配慮したケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いが悪かったりするのがあれば、その場で指導を行うようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議などで説明したり、研修でどのような制度なのかを学ぶ機会がある。実際、制度を利用している利用者も過去にいた。	入居契約時に、説明用のパンフレットを基に、制度についての説明を家族に行っている。適宜、家族からの相談も受け、施設長が説明をしている。職員は制度に関する外部研修に参加し、他の職員にも資料を配布し、伝達研修が行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明は行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や普段の面会時に意見を聞くようにしている。頂いた意見を運営、ケアにつなげるようにできよう努めている。	毎月“田尻の里たより”で暮らしぶりを家族に伝えており、面会時や電話で家族に意見を伺っている。25年度には看とりや外出支援に関するアンケートも行われ、ご本人の生活をより豊かにするための方法を家族と考える機会が作られた。家族との関係を深める取り組みを、職員は積極的に考えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で行なっており、運営に反映できることは行なっている。	研修計画も計画作成担当者中心に作成している。評価表で自己チェックを行うと共に、半年ごとに個人面談を行い、職員自らの目標設定をしており、次第にモチベーションも高まってきている。職員自身が当事者になり、自発的に考える事を大切にしており、着実に職員の行動力が伴ってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	生活を支えるために、加算などして給与を上げられるようにしていると思う。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢などで職員選別は行なっていない。	採用時には職員の仕事への思いなどを確認しながら、生活力や自主的に仕事できる方かどうか等を大切にしている。採用後も職員のモチベーションを維持するために、意見や不満を伝えやすい職場を作ると共に、得意な事などを發揮してもらっている。職員の離職も減り、チームケアも強くなっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ユニット会議の時に話している。	管理者は“大切な人を守る”“生活歴を大切に把握する”などの重要性を職員に伝えている。介護の質はチームワークであり、人権擁護はホームの最高理念として、“職員に求められる原則10か条”の中にも、“尊厳”という考えが入っている。“人の痛みを感じられること、当事者意識を持つこと”を伝え続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を設けている。有料の研修も必要ならば受けられるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク作りなどに参加している。他のグループホームの運営推進会議に参加した。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を含め家族の困っていること、要望など聞くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという性質上、出来ることはして頂き、生活を共にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に協力を仰ぎ、本人を支えていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年一年はできなかった。	家族などに年賀状や手紙を送っている。電話の取り次ぎも行い、家族とのメール交換も始めている。希望に応じて自宅にお連れしており、家族と一緒に美容院に行かれる方や、お墓参りに出かける方もおられる。お友達が隣の医院を受診した帰りにホームに来て下さり、お部屋でゆっくり過ごされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性に考慮するなどして支え合えるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所しても、面会を行うことをしている。家族にも相談がある場合いつでも声をかけていただくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	ご利用者の“ありのまま”を受け止める事を大切にしている。意思疎通が困難な方も、表情などを丁寧に観察し、家族から好きな事などを教えて頂いている。ご利用者との会話の中から、「どのようにしたい」と言う思いや意向を把握するように努めており、センター方式への記入も増やしていく予定にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は認知症の利用者を理解するために重要と考えできる限り聞くようにして、サービスにつなげるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者と計画作成担当でプランをつくるようになってきたところである。	“介護は生活そのもの”と考え、介護計画を重視している。“野菜切り”“洗濯物たたみ”など、ご利用者の役割と共に、歩行訓練などのリハビリも盛り込まれている。計画別表も作られ、24時間全般のケア内容が記載されている。今後も“ご本人のプラン”と言う意識を大切に計画を作成し、ご本人にも説明をしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議などを通じて本人にしてあげたいことや必要なことを考えプランや生活に活かさないか検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行うようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店や施設など活用できるものは使うようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診で報告をして、必要な受診を行っている。	往診が可能であり、森本医院にかかりつけ医を変更される方もおられる。受診結果は医療受診報告書に記載し、家族に報告している。医療連携会議を開催し、毎日電話で報告すると共に、25年7月からホームに看護師が入職し、気付いた事は報告している。看護師が受診同行しているが、家族にも付き添いをお願いしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	7月からホームの看護師が入職したので、気づいたことは報告するようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した病院の相談員と話し合いを行い、情報交換をするようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護の重度化に関してはできる限り話し合いを行い出来ることできない事の説明は行っている。終末期に関しては出来ていない。	入居時、医療が常時必要な状況や寝たきりの状況になった時など、ホームでの対応が難しい事を説明し、必要に応じて特養などを紹介している。重度化しないよう健康管理に努めると共に、心身状況によっては医師に紹介状を書いて頂き、病院を紹介する等の対応も行われている。家族に看とりのアンケートを行い、意向の把握も行われた。	看護師が勤務するようになり、今後も引き続き、医療との連携を密にし、終末期の方針を明確にしていく予定である。ターミナルの研修に職員が参加しているが、今後も更に研修に参加する機会を作り、終末期ケアのあり方を含め、職員間の意識統一をしていきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練など行い、避難の誘導方法など身につくようにしている。地域との連携は取れていないと思う。	年2回、両ユニット合同で夜間想定訓練が行われ、その内1回は消防署との訓練が行われている。隣接する母体医院が避難先であり、医院には救護活動などの連携をお願いしている。災害に備えて非常食を準備し、家族参加の避難訓練では炊き出しを企画している。スプリンクラーも設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴などプライバシーに配慮するようにしている。	排泄や入浴の際も、さりげなく耳元でお誘いしたり、更衣などは個室で行う等、羞恥心への配慮をしている。ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言動にも気を配り、馴れ合いにならないように職員同士で注意し合っている。“待つ”の前に必ず説明を入れ、強い語調にならないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話からどのような事がしたいかなど意識している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度はしているが、共同で生活しているため全ての希望には添えていない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が好きな服装や整容など行うようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものを献立に入れるようにしている。一緒に準備などは、加齢に伴って難しくなっている。	3食手作りである。ホームの畑にはスナックエンドウやさつま芋などを植えており、ご利用者と一緒に収穫されている。日々の食事も食べやすい調理の工夫を行い、野菜の下ごしらえや下膳、おやつ作りなどを手伝って下さっている。職員も一緒に食事をしており、そうめん流しや、庭での焼き芋も楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量に特に注意を行なっている。献立は、野菜を入れるよう注意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。毎週一度、訪問歯科が来ており、診ていただいている利用者もいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導が増えている。それで、出来るだけトイレでの排泄を目指している。	ご利用者毎の排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。布パンツ(+パッド)の方も多く、ご利用者の様子を見ながら誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めており、失禁も減っている。車いす利用の方も立位訓練を行い、運動も取り入れ、腸の運動を刺激する工夫をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	離床後に冷たい水や牛乳を飲ませている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員のシフト上、時間などについてはこちらの都合に合わせてもらっている。	拒否が見られた方にも声かけを工夫し、湯船に入る恐怖心の強い方はシャワー浴と足浴で対応している。湯船では歌が聞かれ、柚子湯なども楽しまれている。今後も、夕方の入浴ができるようにシフトの検討をすると共に、北ユニットのお風呂も利用し、湯船に浸かれる支援を続ける予定である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動や覚醒を促し夜間眠れるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような種類の薬を内服しているか理解するように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなど利用者が出来ることをしてもらったり、カラオケなど好きなことをできるよう考えている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日などに個人の外出支援を行なった。美容院に行きたい利用者がおり、家族にお願いしている。	ゴミ捨てに行かれたり、隣の薬局でおやつや買い物をされている。23年度から両ユニット合同の外出をしており、莓狩りや蛍見物、みかん狩り、回転寿司なども楽しまれた。家族と外食される方もおられ、季節に応じてお花見にも出かけている。野球観戦や博多座での観劇に行かれた方もおられ、イオンでの買い物や食事を楽しまれるなど、毎月の外出を続けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には、スーパー程度だが支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お子さんや知人に電話したいと申し出がある時に電話をかけるなどしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や大きい音をたてないことを注意している。	リビングにホワイトボードを設置し、行事予定等をお知らせしている。玄関やリビングには、ご利用者が手入れしている観葉植物が置かれ、リビングの天窓からは明るい日差しが差し込んでいる。除菌も可能な大型の空気清浄機が置かれ、冬は加湿器を使用するなど、温湿度管理も行われている。1つのユニットにはピアノもあり、園児の来訪時や家族等が弾かれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できていない。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物や作成した飾り物など居室に掲示するなどしている。	寝具や和筆筒、鏡台、仏壇等を自宅から持ち込まれ、植木鉢やぬいぐるみ、趣味だった絵画、教え子から貰った飾り物(ステンドグラス)も飾られている。自宅との環境の違いを少なくするために、使い慣れた食器なども持参して頂き、居室のカーテンの色やデザインも選んで頂いている。25年度は西側のカーテンを遮光カーテンに変更された。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩きをできるようにしたり、動線を考え座る位置など考えたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			